

SSRIⅡ・SSRB

ディベート

SSR II・B「ディベート（1）」～ディベートとは?～



1 ディベートとは？

「ディベート」と聞いて何を思い浮かべるだろうか。

→『話し合い?』『言いたいことをお互いに言い合うこと?』

《ディベートの定義》

ある特定のテーマの是非について、2グループの話し手が、賛成・反対の立場に別れて、ジャッジを説得する形で議論を行うことであるとされる。

例えば、「日本は高速道路の建設をやめるべきだ」というテーマであれば、賛成派は、建設をやめることによってどんなメリットがあるのかを訴え、逆に反対派はそれによってどんなデメリットが生じるのかを訴える。アメリカの大統領選における候補者の公開討論や、裁判での検察側と弁護側の応酬はこの典型的な例と言える。

2 ディベートで身につけてもらいたい力

- 客観的・批判的・多角的な視点をもつ
- 論理だった思考を行う
- 情報収集・整理・処理能力を身につける
- 自分の考えを論理的に、人前で説明・主張する力をもつ

3 授業におけるディベート

授業では、ジャッジが勝敗を決めるゲーム形式のディベートを行います。公平を期すため、テーマ、肯定側・否定側をランダムに割り振ります。話す順番・制限時間も定め、原則として一人の人が話している間は、他の人が発言することはできない等のルールにします。また、自分がテーマに対して割り振られた側と違った考えを持っていたとしても、いったん脇に置いて、ゲームに勝つために全力を尽くしてください。

《勝つためのポイント》

- ・理由・筋道をはっきりさせて、自分たちの主張をする。
- ・論文や文献を調べ、主張の補強をする。
- ・グループ内で、よく意見交換し、主張に一貫性を持たせる。
- ・対戦相手の主張をよく聞き、議論がかみ合うように注意する。

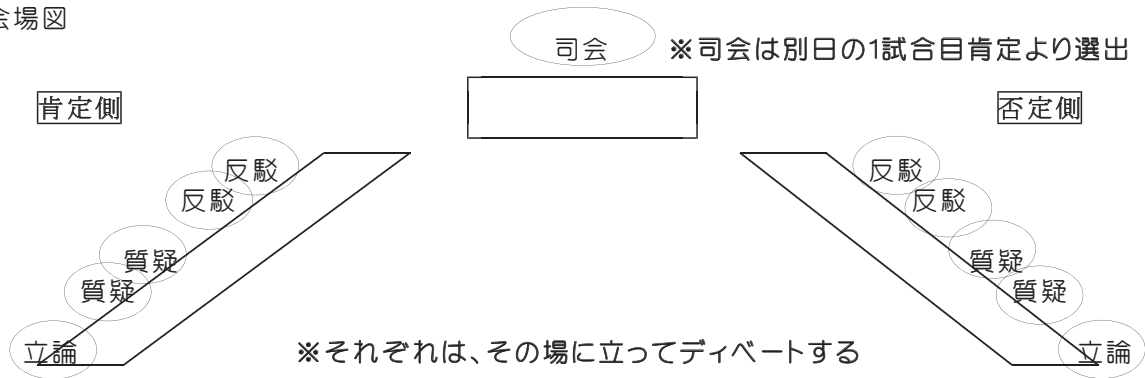
4 ルール

- ① **対戦相手を言い負かすことが目的ではなく、ジャッジを説得することが目的**である。
- ② 決められた時間は、厳守すること。
- ③ 各ターン(後で説明)基本一人で話すこと。
- ④ 主張には根拠が必要。また、論拠となる資料は、第三者が入手可能なこと(具体的には、公刊された出版物。選手が独自に調査したものや、時間とともに入手できなくなるものは「×」)
- ⑤ 論拠資料を引用するときは、**著者名・著者の肩書き・文献名・発行年月日を述べる**こと。、原文のまま引用すること。
- ⑥ 相手の議論を意図的に曲解するなどの非礼な行為は、厳に慎むこと。
- ⑦ 【反駁】では、新しい議論を持ち出してはならない。(論点と論拠は【立論】の中で出し尽くすこと)。
- ⑧ 主体(政府など)が、プランを本当に実行するかどうかを証明する必要はない。
- ⑨ 質疑応答の内容は、次の【反駁】に反映させること。
- ⑩ メリット・デメリットには、それが発生する過程と、その重要性を述べること。

5 ディベートの流れ

《肯定側》	《否定側》
<p>①肯定側 立論（4分） どのようにテーマを実行するか、具体的なプランを説明する。次に、そのプランを実行した場合にどのようなメリットが発生するか説明する。</p>	<p>※質疑を考えながら聞く、メモを取る。</p>
<p>準備時間（1分）</p>	
<p>※質問にははっきりと答える。しかし、反論してはならない。</p>	<p>②否定側 質疑（2分） 肯定側の立論をよく理解するために、否定側が質問する。ここで、反論してはならない。</p>
<p>※質疑を考えながら聞く、メモを取る。</p>	<p>③否定側 立論（4分） 肯定側立論で示されたプランを実行すると、どのようなデメリットが発生するかを説明し、現状を変える必要がないことを訴える。</p>
<p>準備時間（1分）</p>	
<p>④肯定側 質疑（2分） 否定側の立論をよく理解するために、肯定側が質問する。ここで、反論してはならない。</p>	<p>※質問にははっきりと答える。しかし、反論してはならない。</p>
<p>※反駁に対する反駁を考えながら聞く、メモを取る。</p>	<p>⑤否定側 第一反駁（2分） 肯定側立論に反駁する。肯定側の主張がなぜ誤りなのか、その根拠を明確にする。その際、専門機関のデータや専門家の意見があると良い。</p>
<p>準備時間（1分）</p>	
<p>⑥肯定側 第一反駁（2分） 否定側立論と否定側第一反駁に反駁する。肯定側の主張がなぜ誤りなのか、その根拠を明確にする。</p>	<p>※反駁に対する反駁を考えながら聞く、メモを取る。</p>
<p>準備時間（1分）</p>	
<p>※反駁に対する反駁を考えながら聞く、メモを取る。</p>	<p>⑦否定側 第二反駁（2分） 肯定側第一反駁に対して反駁する。その後、今までの議論で自分たち否定側の主張が勝っていることを述べる。また、反駁し忘れていることがあれば、反駁しても良い。</p>
<p>準備時間（1分）</p>	
<p>⑧肯定側 第二反駁（2分） 否定側第二反駁に対して反駁する。その後、今までの議論で自分たち肯定側の主張が勝っていることを述べる。また、反駁し忘れていることがあれば、反駁しても良い。</p>	
<p>【ジャッジ（見ている人）による判定】</p>	

6 試合会場図



7 今回のテーマと班員・役割分担

○今回のテーマは

肯定 ・ 否定

○班員と役割分担(1人1役※4人の班は、2役可)

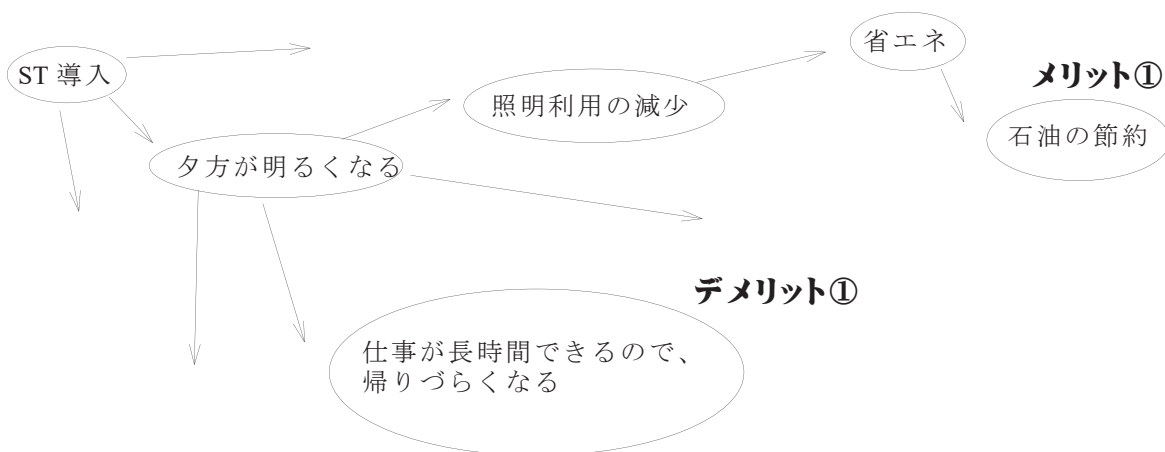
・立論「	」	・質疑「	」
・反駁「	」	・質疑「	」
・反駁「	」		

8 リンクマップ

テーマが決まり班が決まると、早速、情報収集に走りたいところだけど、闇雲に本や資料やネットを見ても効率が悪い。まずは、班内で意見を出したり、百科事典などで知識を増やして、どのようなことが議論されているのか、イメージを膨らませてみんなで共有して、方向性を決めてから、リサーチした方が良い。その際良く活用されているのが、リンクマップ。例えば、プランが導入されると(今回のテーマが実施されると)どのようなことが起こるのか、色々意見を出し合ってみる。その意見から連想されるメリットは、さらに連想されることは、・・・というようにどんどんイメージを膨らませる。行き詰まった時は、元に戻って別の視点から(今度はデメリットを)考えてみるなど。

例: テーマ:日本はサマータイム(ST)を導入すべきである。是か非か。

①リンクマップ



②調べることをリストアップする

- ・制度について
- ・なぜそんな制度ができたか
- ・世論の反応は?
- ・法律はどうなっているのか
- ・外国はどうなっているか
- など

※調べる分担も決めておくと、効率上がるかも..

9 今後の日程(全5回)

- 第1回 《 月 日()》
ディバートの説明、テーマ提示、班分け(2テーマ、8班)
- 第2回 《 月 日()》
班内分担決め、情報収集①(図書館、PC教室、iPad ※スマホ不可)、活動シート①記入
- 第3回 《 月 日()》
情報収集、討論準備②(図書館、PC教室、iPad ※スマホ不可)、活動シート②記入
- 第4回 《 月 日()》
情報収集、討論準備、リハ(図書館、PC教室、iPad ※スマホ不可)、活動シート③記入
- 第5回 《 月 日()》
ディバート実践①(2テーマ、4班)
- 第6回 《 月 日()》
ディバート実践②(2テーマ、4班)

10 実際にリンクマップを作ってみよう!

《調べることリスト》

SSR II・B 「ディベート（２）」～情報収集～



1 図書館、パソコン教室、iPad等で情報収集

- ①知識を増やしながらか、実際のディベートで使えそうな意見やデータがあれば、印刷やコピー（担当の先生に頼んで）をしておく。使えそうなというのは、**主張の根拠として利用できそうな**ということ。
- ②できるだけ**中立の意見を引用**すること。たとえば「サマータイム絶対正しいの会」のような運動団体の意見を参考にするのは構わないが、主張の根拠としては偏り過ぎており、共感を得られにくく、あまり強力ではない。むしろ、**大学の専門機関の研究者や公官庁などの政府機関の方が**、多くの人に受け入れられやすく、納得してもらいやすい。
- ③インターネットでの検索は、慎重にすること。なぜなら**ネット上の資料は基本的に信憑性が低い**。書籍や論文であれば、出版されたり、図書館に収蔵されたりする過程で様々なチェックが入るので、論拠のない適当な内容は少ない。しかし、インターネットであれば、誰でもすぐにページがつくれるので極端に言えば、「△△大学〇〇教授」と肩書を偽って情報を公開することもできる。**ウキペディアも、誰でも書きかえることが出来るので、信憑性はそれほど高くない**といえる。従って、ページの管理者やその肩書には十分注意し、情報の更新日などもチェックしなければならない。

2 立論をつくる

①「肯定側立論」をつくる

ポイント： 具体的プラン と メリット を提示すること …必ずその根拠を盛り込む。
例：テーマ「日本はサマータイム制を導入すべきである、是」

- ・私たちは「日本が2020年にサマータイム制を導入する」ことを主張します。
- ・現在は、（こんな不都合なこと）が起っています／起っていました。
（証拠資料）では、次のように述べられています。引用します。「……。」
- ・サマータイム制を導入すると、（こんなメリット）が発生します。
- ・そのメリットは次のように発生すると考えられます。…（説明）…
（証拠資料）では、次のように述べられています。引用します。「……。」

以上の理由で、私たちは、「サマータイム制を導入する」ことに賛成します。

②「否定側立論」をつくる

ポイント： 肯定側のプラン と 論理の矛盾 を突く …必ずその根拠を盛り込む。
例：テーマ「日本はサマータイム制を導入すべきである、非」

- ・私たちは「日本が2020年にサマータイム制を導入する」ことを否定します。
- ・私たちは、肯定側のプランでは、（こんなデメリット）が発生すると考えます。
（証拠資料）では、次のように述べられています。引用します。「……。」
- ・サマータイム制を実施しなくても、現在のままだでも（こんなメリット）があるんです。
（証拠資料）では、次のように述べられています。引用します。「……。」

よって、「サマータイム制を導入する」ことに反対します。

③逆の立場に立って、「反論」してみる

作り上げた「立論」を一度、相手側の立場に立って「反論」してみる。実際に試合の時反駁するときには、相手が証明した議論1つ1つに対して反論しなければならないので、それを想定してやってみるとよい。また、その反論に対する反論を考えておくとよい。

《反論には大きく分けて3つの種類がある》

- (1) 「相手の主張は間違っている」と反論する。
- (2) 「相手の主張を支える根拠が間違っている・疑わしい」と反論する。
- (3) 「根拠と主張がずれている・結びついていない」と反論する。

具体的には

- (1) …「サマータイム制は省エネにつながる」という相手の主張に対して、「サマータイム制は省エネにつながる。なぜなら、労働時間が増えて…」などと反論することである。この反論は一見簡単そうに思うかもしれないが、注意しないと単なる水掛け論で終わる可能性がある。**ディベートで重要なことは、主張を支える根拠の確かさを提示することである。**だから、反論を行う時も必ず根拠を言わなければならない。また、ターンアラウンドと言って、相手の主張はむしろ逆だと述べる反論方法がある。たとえば、相手が「水泳訓練に参加すると、バスケの練習時間がなくなるので下手になる」というのに対して、「水泳練習に行くと、かえってバスケがうまくなる。なぜなら泳ぐことで普通の練習では鍛えることのできない部分の筋肉が鍛えられるからである」のように反論することである。
- (2) …相手が示した根拠に対する反論である。「根拠としている事実は誤りだ」とか、「根拠としている統計が間違っている」等と反論する。ただし、ディベーターはしっかりリサーチをしているのが当たり前なので、この方法は難しい。常に新しい資料を探し、反論で使えるものを見つけておくようにしておく必要がある。
- (3) …相手の主張や根拠を直接否定するのではなく、主張と根拠をつなぐ部分を攻撃する方法である。たとえば相手が「サマータイムを導入すると石油が10万KI削減できる。なぜならA国で実際に導入したときに10万KI削減されたからだ」と主張したとする。これに対し、「日本とA国では、人口も経済規模も…のように全く違うので、同じ効果は期待できない」とか、「日本は省エネ技術がA国に比べて非常に高いので、同じ効果は期待できない」などと反論する。

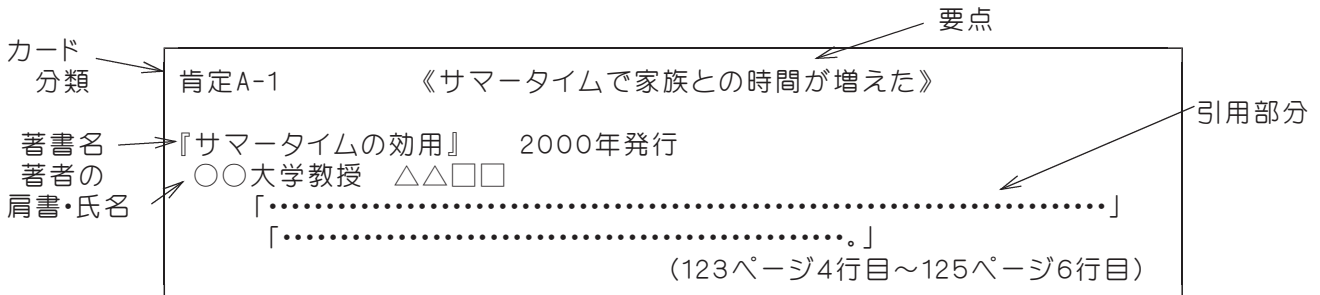
3 (上記を参考にして)反駁を用意する

①以下は、肯定側の主張に対する反論方法を示した。



②反駁カード(メモ)を用意する

本や雑誌のコピーをの証拠資料として使いこなすのは難しい。なぜなら、そのままでは、何処を引用すればいいのかわかりづらいため、著者の肩書や発行年数は何処に書かれているのかわかりづらいため、そのため試合中に読み上げるのに時間がかかったり、反駁でき時間が減ったり、ジャッジにしっかりアピールできなかったりする。そこで、証拠資料とは別に、予めカードに移して探しやすいように準備するという方法がある。



【テーマ： 肯定側 班 否定側 班 勝利 班】 デイバート開催日：()月()日

肯定側立論	否定側質疑	否定側立論	肯定側質疑	否定側①反駁	肯定側①反駁	否定側②反駁	肯定側②反駁



組 番 氏 名

あなたのシヤッジは	判定理由
班	